

編集後記

大分前になるが、プライマリ・ケア学会に出席した折りに、川崎医科大学救命救急センターの教授と同席して、いろいろお話を伺ったことがある。それ以後、編集子は大体が一次救急に縁遠いものだから、その学会そのものから足が遠のいてしまった。しかし、現在の我々の病棟においても、また関連病院においても、整形外科では骨折が大きな分野を占めるし、関連のリハビリテーションセンターでも、骨折と、それに伴う後遺症との闘いは主な仕事の一つである。最近になっても交通外傷はいっそうに減少せず、一方、労働災害件数は下がったかのように見えるが、一件一件の病状は以前より重篤であるような印象さえ受ける。かくして、「四肢多発外傷とリハビリテーション」が今回、特集として取り上げられることとなった。

小野氏らは1,153例の救急患者のうちの11%、127例の解析から、初期治療とともに、治療スタッフのシステムとその流れを要約し、円滑に救急部が機能していることを示された。岩田氏の論文では、多発骨折が単独損傷より機能障害が高度であるために、早期からの機能回復訓練の必要性や、それを助けるための強固な内固定が必須である点を強調されている。白井氏らの大学でも救急部がよく機能していることは知られているが、後の機能障害の大きいことを

警告、早期からのROM訓練やPREなどのメニューを示された。林氏は高齢者でも入院患者の4%くらいの頻度で多発四肢骨折の起こることを述べ、若年者に比較してその治療とリハビリテーションの困難な点を示された。

最後に当教室の伊藤が、最近有用性が認められてきたCPMについて、その利点と欠点を述べたが、やはり機器の一つに頼るため、理学療法士の手によるよりは劣る点もある。さらに、獲得されるROMは究極においては他の方法によるものとあまり変わらないが、要は非常に速やかに望んでいるROMに到達するので、患者のADL上利益があるわけである。

投稿論文の内容も充実している。楠田氏は老人慢性疾患患者のADL評価法を工夫し、自宅退院率の推定などにユニークな指標を出そうと試みている。山田氏は感染症児の教育保障の問題をアメリカ判例から分析し、紹介されているが、AIDSなどが蔓延したら、我が国でもそのような事態が起きるのかと、恐怖心すら覚えた。道免氏は今年のリハビリテーション医学会でも発表された「機能的自立度評価法」を御投稿（有料掲載）下さった。また、積氏らの入院中の脳卒中再発率の検討も一読に値する。今後もこのような論文の投稿を期待したい。（大井淑雄）

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
河 邨 文 一 郎
五 味 重 春
津 山 直 一
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
緒 方 甫
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

今 田 拓
江 口 壽 榮 夫
小 川 孟
荻 島 秀 男
奥 川 幸 子
加 倉 井 周 一
小 島 蓉 子
斉 藤 正 也
笹 沼 澄 子
澤 村 誠 志
高 橋 勇 吉
高 松 鶴 吉
武 智 秀 夫
土 屋 和 夫
土 肥 信 之
土 肥 豊
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
野 村 歡
初 山 泰 弘
福 井 園 彦
福 田 道 隆
松 村 秩
三 島 博 信
村 上 恵 一
矢 谷 令 子
米 本 恭 三
渡 辺 英 夫
(五十音順)

総合リハビリテーション (第18巻 第8号)

1990年8月10日発行 (毎月1回10日発行)

1部定価 1,803円 (本体1,750円)
(配送料61円)

[年ぎめ予約購読料 20,640円]
(本体20,039円) (送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 社内案内 (03) 817-5600

本誌編集室直通 (03) 817-5704

(担当: 佐々木・細田)

販売部直通 (03) 817-5659・5660

ファクシミリ (03) 815-7802

振替口座 東京 7-96693番

印刷所 三報社印刷(株): 電話 (03) 637-0005

広告申込所 (株)東広社: 電話 (03) 409-8803

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku Tokyo © 1990, Printed in Japan.
本誌の内容を無断で複製・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。